

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「悪い」超に転化した。
—— 製造業は、「悪い」超に転化した。非製造業は、「良い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	繊維、木材・木製品、 窯業・土石製品、非鉄金属	自社製品への引き合いの強まり
	悪化	はん用・生産用・業務用機械、 金属製品、鉄鋼、食料品、 輸送用機械、紙・パルプ、電気機械	海外需要の減少 原材料価格上昇による利幅縮小
非製造業	悪化	宿泊・飲食サービス、建設、卸売、 運輸・郵便、小売	自社製品・サービスの販売不振 公共工事受注の減少

- **先行き**については、「悪い」超幅が拡大する見通しである。
—— 製造業は、「悪い」超幅が拡大する見通し。非製造業は、「悪い」超に転化する見通し。

(事業計画)

- 2019年度の**売上高**は、前年を上回る計画、**経常利益**は、前年を下回る計画である。
—— 経常利益は、製造業で、コストダウン要請の強まりや設備投資費用の増加などから、減益計画となっている。非製造業は、原材料価格上昇による利幅縮小などから、減益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業では、コストダウン要請の強まりや通商政策を巡る世界的な不透明感の高まりなどから、下方修正となった。非製造業では、新規出店効果や高単価商品の販売増加などから、上方修正となった。

- 2019年度の設備投資は、前年を上回る計画である。
 - 製造業は、中長期的な成長が見込める分野での能増投資や大規模な効率化投資などから、前年を上回る計画である。非製造業は、前年の大型投資の反動などから、前年を下回る計画である。
 - 前回調査対比で見ると、製造業では、大規模な能増投資がみられたことなどから、上方修正となった。非製造業は、前回調査並みとなった。
- この間、2018年度の売上高は前年を上回り、経常利益は前年を下回った。設備投資は前年を大幅に上回った。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D. I.は、前回調査並みの「上昇」超となった。仕入価格判断D. I.は、「上昇」超幅が縮小した。
- 雇用人員判断D. I.は、「不足」超幅が小幅縮小した。
- 資金繰り判断D. I.は、「楽である」超幅が小幅拡大した。貸出態度判断D. I.は、「緩い」超幅が小幅縮小した。借入金利水準判断D. I.は、「低下」超幅が縮小した。

以 上